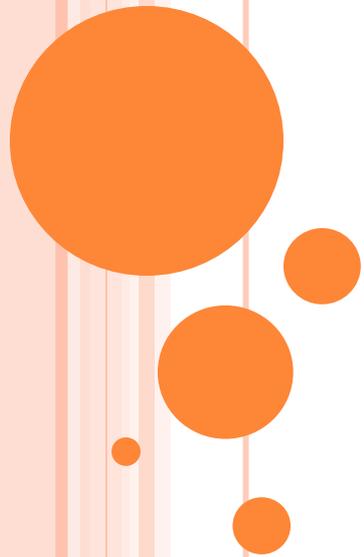


環境の世紀17 第13回

駒場の電気を考える



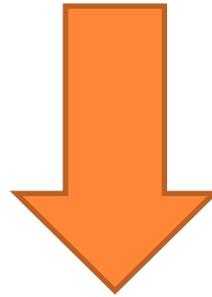
本日のタイムテーブル

1. グループワークの説明
2. “電気”各回のおさらい
3. グループワークの実施
4. ひとつと発表会
5. 講評
6. レポート課題などのお知らせ



グループワークの目標

- 『環境の世紀17～身近な環境をもっと“身近に”～』
全体を通じての目標
→環境問題を自分の問題として理解する・考える



- 今回のグループワークの目標
→節電の問題を自分たち(学生)の問題として考えてみる！



グループワークの流れ

1. ひとりひとりの節電案を発表する



2. それぞれの案に対して互いに意見を述べる

ポイント

- ・学生(個人単位、複数単位)はどのようにして関われるのか？
- ・持続性はあるか？
- ・環境負荷がどれくらい抑えられるか？
- ・費用対効果はどうか？

...などなど



ひとこと発表会

- ひとりひとりで1分間スピーチ！
 - 今回のグループワークを通じて、どのように自分の節電案を変えようと思ったか
 - 電気の授業を通じて、電気や節電に関してどのように自分の考えは変わったか／変わらなかったか



- 無意識で行動できること
- 学生の力でできること 学生も費用負担
- 学生が楽しみながら 日頃できることが考えられた
- 実体験の話が聞けて面白かった 節電は続けられるダイエットと同じ！
- 学生の力でなにかすることが大事 費用も最後は自分たちで 学生自身の意見が大事 環境保全で大事なものは意見交換
- 東電に働きかけるアイデアは学生からしたら身近じゃないかも 身近なことは大きな効果は得られないかも 今日出た案でやれそうなものがあった
- どうやって発信するかが問題 場をもうけるのが大事
- 部屋に仕切りをもうける←わりとできそう 同志と意見を言ってみたい
- 見える化にも意味があるかも やらないと机上の空論で終わってしまう 環境三四郎ががんばれ！



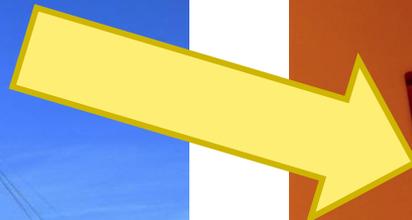
- 電気が有料であるという意識 学生会館だったら実現？ポイント制なら実現？ 小さなことからでもやってみたい
- みんなにどうやって広めるかが難しい 駒場大たき火大会をやりましょう
- 発電する量が変わらないなら意味がない...？環境について興味をもつための節電、というとらえ方
- 実現できそうな面白い意見 行動に移さないとなにも変わらない 環境三四郎にお願いしたい 学生の意識を変えるのが難しい
- 節電のモチベは節電の意味を知らせること 意味があるとやる気が出る
- 知識があって節電する人とない人が節電する人の違いを考えたい



- 夏の冷房冷え過ぎは外の環境を無視してる コンピューター制御(21KOMCEE) やはり機械を高度化させて節電すると楽
- 新入生のガイダンスで学生全員に言えば聞いてくれるかも モチベーションが続くにはどうしたらいいのかが問題
- 各教室でどれぐらい電力使ってるか計算 スイッチにつけたりなどやってみたいと思える案が出てきた



講評



お知らせ

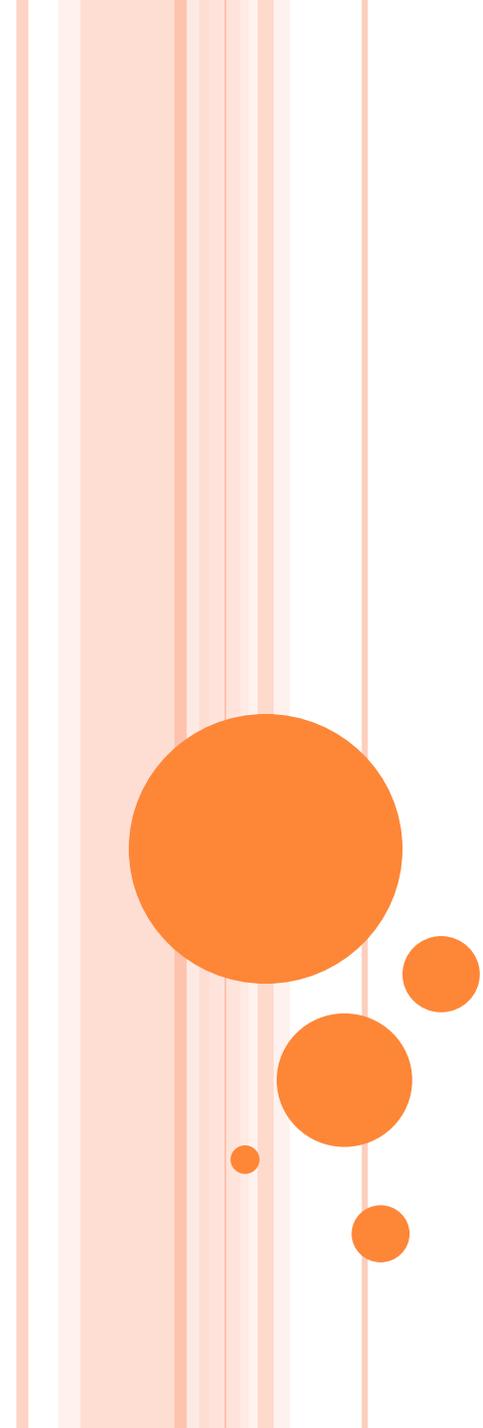
- 授業資料、受講生のメモまとめ、レポート課題などは『環境の世紀17』のHPに載っています。

<http://www.sanshiro.ne.jp/activity/11/e-cen17/>

※パスワードは全て 　　　　　　です。

- 来年度の夏学期には『環境の世紀18』が開講されます。よろしければぜひ。





『環境の世紀17』が
みなさんの身近な環境を
もっと“身近”にする一助になれば幸いです。

責任教員
企画運営

飯田誠
環境三四郎